

令和8年 お茶づくり技術情報 (No.2)

2026年4月7日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象と生育

1) 一番茶の萌芽

- (1) 茶業試験場内の作況調査園において、「やぶきた」は4月3日に萌芽期を迎え、前年および前5か年平均の3月28日より6日遅い萌芽期となっており、中生品種の萌芽日が遅れている。
- (2) また、茶業試験場内の「さえみどり」は、3月26日に萌芽期を迎え、昨年よりも1日早かった。



写真1 「やぶきた」の一番茶芽
(撮影：2026年4月2日)

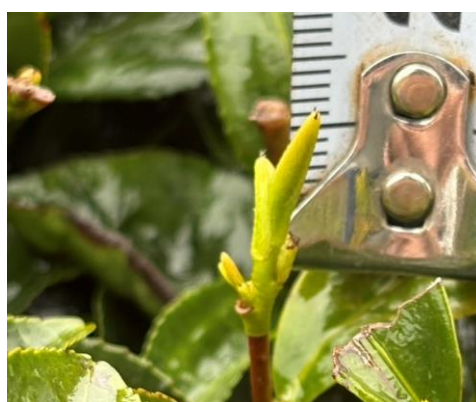
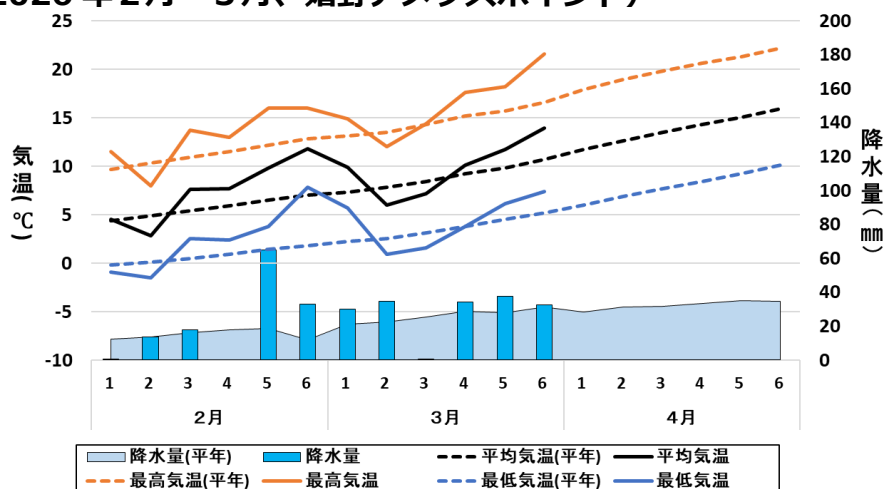


写真2 「さえみどり」の一番茶芽
(撮影：2026年3月26日)

2) 気象 (2026年2月～3月、嬉野アメダスポイント)



- (1) 2～3月の気温は、2月上旬および3月上旬は平年より低く、2月中下旬および3月下旬は平年より高く推移した。
- (2) 3月に0℃を下回ったのは、8日 (-1.4℃)、11日 (-1.3℃) であった。
- (3) 降水量は、2月上旬 14.0 mm(平年比 54%、以下同様)、2月中旬 18 mm(51%)、2月下旬 98 mm(280%)、3月上旬 (145%)、3月中旬 34.5 mm (66%)、3月下旬 70 mm (125%) であった。

3) 今後の気象の見通し

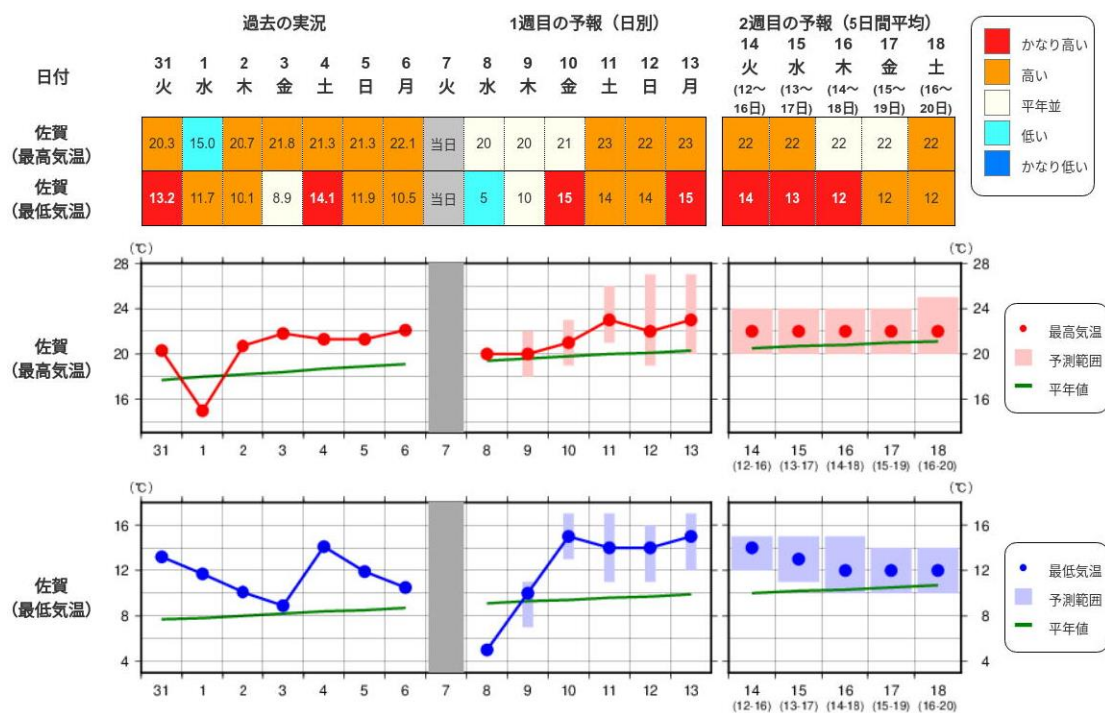
■ 1か月予報 (気象庁、2026年4月2日発表)

向こう1か月の天候の見通し
九州北部地方 (山口県含む) (4/4~5/3)

	平均気温 (向こう1か月)	降水量 (向こう1か月)	日照時間 (向こう1か月)
九州北部地方 (山口県含む)	低10 並10 高80% 高い見込み	少10 並30 多60% 多い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み

- (1) 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高くなる見込み。特に期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性がある。
- (2) 向こう1か月の降水量は、低気圧や前線の影響を受けやすいため多く、日照時間は平年並か少ない見込み。

■ 2週間予報 (気象庁、2026年4月2日更新)



- (3) 今後2週間の気温は、最高気温、最低気温ともに平年より高く(特に10日、13~16日の最低気温)、急激に新芽の生育が進む可能性がある。
- (4) 4月8日(水)の最低気温が平年と比べて低い予報のため、霜に注意する。

今後の生育予測や防霜対策、被覆時期の調整に気象庁の予報サイトを活用しましょう!



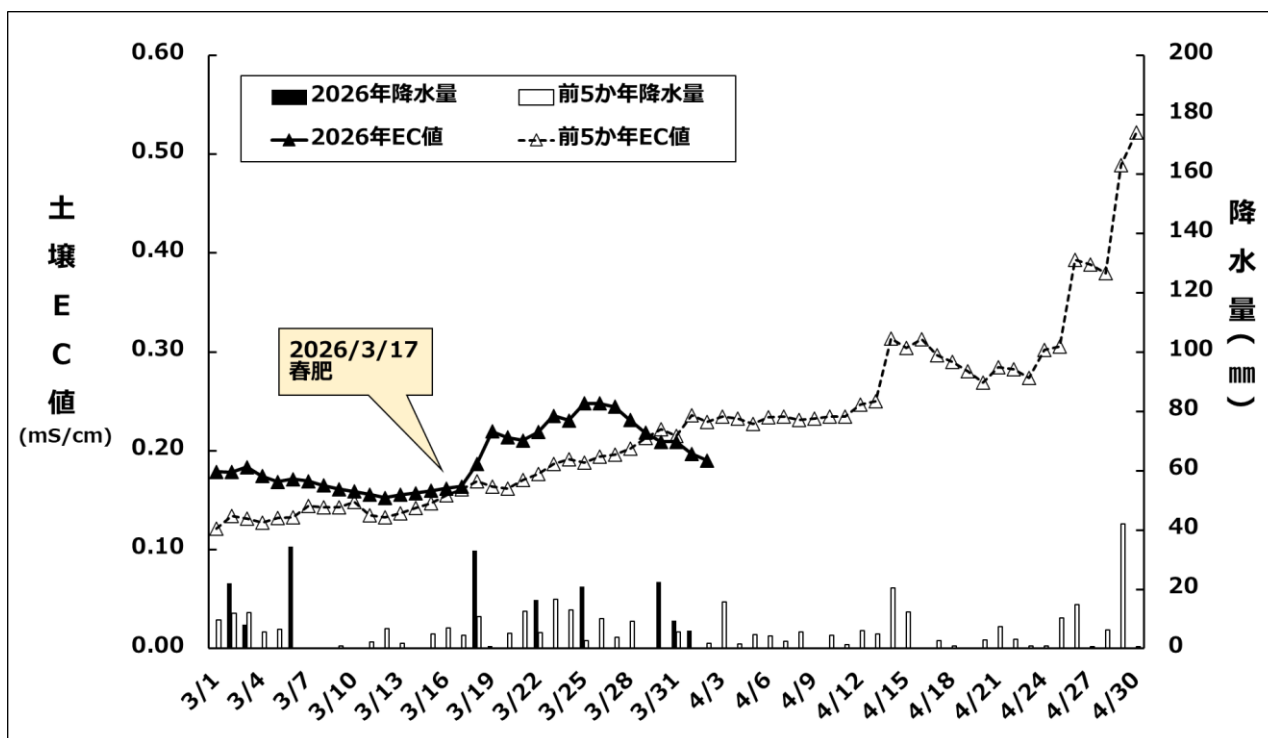
1か月予報 (九州北部)



2週間予報 (佐賀県)

2. 今後の管理

1) 施肥管理



注) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25 cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す

- (1) 土壌 EC は、春肥施用後の降雨によって3月下旬に上昇した後、低下している。
- (2) 芽出肥の施用は一番茶摘採の30~40日前を基本とし、施肥後は土壌と混和する。
- (3) 分施する場合は、2回目の速効性肥料(硫安など)を摘採14日前頃(2葉期)に施用する。

2) 被覆管理

- (1) 資材は、遮光率70%程度で、穴・汚れ・異臭のないものを使用する。
- (2) 被覆開始は、基本的に2.5~3.0葉期とし、被覆期間は10日間程度とするが、新芽の葉数や生育速度を考慮し、摘採時期により判断する。極端な若芽への被覆は減収につながるため避ける。また、高温等で生育が進むことが予想される場合には早めの被覆で対応する。
- (3) 直前の気象条件により新芽生育は異なるため、気象庁の2週間気温予報の確認、茶園巡回で芽の観察をこまめに行うなど、適期の被覆開始となるように心がける。
- (4) 被覆後は、風による煽りや擦れによる葉傷みが発生しないように、資材の固定を確実にを行う。
- (5) 被覆資材の除去は、摘採の直前が望ましく、新芽がなるべく日光にあたる時間を少なくし、色戻りを避ける。除去時は持ち上げるように外し、葉を傷めないようにする。